

# 適性検査Ⅰ

## 注 意

- 1 問題は2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立桜修館中等教育学校

次の**文章A**は、科学史家の村上陽一郎が「教養」とは何かについて書いた本の一部分で、「多くの知識やその広がり  
が教養の一要素になっている」と述べたあとに続くものです。**文章B**も同じ本の一部分で、「教養を身につけるとは、き  
ちんとした人間として、正しいと思う方向に向かって自分を造り上げていくことなのではないか」と述べたあとに続くも  
のです。この二つの文章を読んで、あとの**問題**に答えなさい。（\*印の付いている言葉には、文章のあとに〈言葉の説明〉があります。）

#### 文章A

でも私は、教養にはもう一つ、決定的に大きな要素が含まれている、と確信しています。それは、自ら  
を立てることに必要なのが教養だと思ふのです。「立てる」と言っても、「人より先にする」という意味  
ではなく、「揺るがない自分を造り上げる」という意味です。あるいは、自分に対して、則\*のりを課し、その  
則もとの下で行動できるだけの力をつける、と言い換えてもいいかもしれません。

#### 文章B

つまり、何を材料にして自分を造り上げるか。広い知識や広い体験は決定的に大事な材料の一つです  
けど、全部ではない。造り上げるというと、いかにも何かがちがちに造り上げた完成品ができてしまっ  
ように見えますけど、そうじゃないんですね。自分というものを固定化するのではなく、むしろいつも  
「開かれて」いて、それを「自分」であると思わず作業、そういう意味での造り上げる行為こういは実は  
永遠に、死ぬまで続くわけです。

#### 〈言葉の説明〉

則のり…人の行動や判断のよりどころとなる考え方。

（村上陽一郎「あらためて教養とは」による）

新潮文庫 刊

## 問題

この二つの文章は、それぞれどのようなことを言いたかったのだとあなたは考えますか。解答らん①には、**文章A**について百字以内、解答らん②には、**文章B**について百四十字以内で、それぞれあなたの考えを分かりやすく書きましょう。なお、**文章A**については「教養とは」という書き出しで、また、**文章B**については「教養を身につけるとは」という書き出しで書きましょう。（それぞれの解答らんには、あらかじめ書き出しの語句が印刷されています。）

また、この二つの文章を読んで、あなたは「自分を造り上げる」ためには何が必要だと考えますか。解答らん③に、あなたの考えを、自分の体験や経験などを交えながら、いくつかの段落だんらくに分けて、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

（書き方のきまり）

- 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。
- 書き出しや、段落だんらくをかえるときは、一まず空けて書きましょう。ただし、解答らん①と②については、あらかじめ印刷されている語句に続けて書き出すこととし、段落をかえてはいけません。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点どうてん↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一まずに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じますに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。